

議案	付託委員会	本会議の結果	市政11	市フ8	公明5	共産3	生ネ3
----	-------	--------	------	-----	-----	-----	-----

★ 議案		○=賛成	×=反対	△=継続			
多摩川衛生組合規約の変更について	建設環境	可決	○	○	○	○	○
府中市組織条例の一部を改正する条例	総務	可決	○	○	○	×	×
府中市奨学資金給付条例等の一部を改正する条例	文教	可決	○	○	○	○	○
府中市住民基本台帳カードの利用に関する条例及び府中市印鑑条例の一部を改正する条例	厚生経済	可決	○	○	○	×	×
府中市立高齢者在宅介護支援センター条例の一部を改正する条例	厚生経済	可決	○	○	○	○	○
府中市景観条例	建設環境	可決	○	○	○	○	○
府中市民保養所やちほにおける指定管理者の指定について	厚生経済	可決	○	○	○	○	×

★ 陳情		○=採択	×=不採択	△=継続			
市議会本会議でのインターネット動画配信を求める陳情	総務	継続	△	○	△	○	○
朝日町1丁目地内大規模開発予定地沿道での歩道設置に関する陳情	建設環境	継続	△	△	△	△	△
ごみ収集システムの検討にあたり、十分な市民参加を求める陳情	建設環境	継続	△	○	△	○	△
過去の国籍要件が理由で老齢福祉年金のない高齢者及び障害基礎年金のない重度障害者に対する「福祉的救済制度」の早期実施を求める陳情	厚生経済	継続	△	△	○	○	○
ごみ箱撤去大反対についての陳情	建設環境	継続	△	△	△	△	×
沖縄戦「集団自決」に関わる文科省の教科書検定意見の撤回を求める意見書採択を要請する陳情	文教	(一括)	△	○			
沖縄戦「集団自決」への軍関与を否定する教科書検定意見の撤回を求める意見書提出に関する陳情	文教	採択	△	△	○	○	○
住友不動産株式会社による「(仮称)府中市府中町1丁目マンション計画」(けやき通り沿い)の見直しを求める陳情	建設環境	継続	△	△	△	△	△

#1 杉村を含む4名が継続、他4名が採択と判断が分かれました。

私は、集団自決については軍の関与を否定するものではありません。しかし軍の強制という言葉では説明できない複雑な背景がありました。教科書の「日本軍によって集団自決を強いられた」という一行でその複雑な状況を子供たちに伝えることは不可能です。「誤解を与えるおそれがある表現」との検定意見は妥当だと思います。また、文科省は軍の関与を否定しておらず、その点をこの陳情は誤解しています。さらに検定意見を政治的な圧力で撤回させることは制度を崩壊させることにつながります。そう考えた上で、沖縄の人々の判断も考慮し、さらに慎重に調査したいと考え、継続を主張しました。

フリーダムネット

No.28 2007.12

< 12 月議会報告 >

市長、ごみ問題につき 民主党案に歩み寄る

6月議会、9月議会とごみ問題が大きな焦点となっていました。9月議会までの市の姿勢は、ごみ処理の有料化・戸別収集の実施・ダストボックス撤去という3点セットを基本方針に、制度設計を進め、条例化し、その後で市民に説明してまわる、というものでした。これに対して私は、市民の9割がボックスを支持しているのだから、方針を固める前に市民の声をもっと聞く機会をつくるべきだといってきました。

その後、民主党府中としてもその方向で市長と折衝を続け、一方で来年の市長選に向けて独自候補擁立も視野に入れてまいりました。そして12月議会において、今回ご報告するように市の方針に変化が見られました。市民との対話に消極的な「結論ありき」の従来の姿勢を、大きく転換させるもので、私たち民主党の主張を大きく組み込んだ形となりました。これを踏まえて、民主党として野口市長と政策協定を取り交わし、市長選で推薦することを決定しました。

政策策定過程で多くの市民と対話をするというのは、府中市政においてはあまり例のないことです。このような画期的な成果が得られたのは、市民の強い願いが市政を動かした結果であると思います。心から感謝申し上げます。

発行所：市民フォーラム 〒183-8703 府中市宮西町 2-24

府中市議会議員・府中の元氣

杉村康之



ご意見ご声援をよろしくお願ひします！

TEL ◆ 042-335-0097 / FAX ◆ 042-361-9856

Email ◆ sugimura@sea.sannet.ne.jp

URL ◆ http://www.fuchu21.gn.to

郵便振替 ◆ 00150-1-102251 (フリーダムネット)

銀行口座 ◆ みずほ銀行府中支店 貯 4572242



①市民にどのようにはかっていくか

杉村 9月議会までの議論からは、いわゆる3点セットを含めた制度設計案をつくり、「その後」市民に説明してまわりたいというのが市の意向だと受け止めている。市民世論調査によれば、8割の市民が今のままでよい、1割の市民がボックスありの有料化を望んでいる中で、結論ありきではなく、十分に市民の声を聞いた上で方向性を決めてほしいと求めてきた。

細かい制度設計に入る「前に」、たたき台を示し市民の意向を聞く必要があるのではないかと。その際、ヒアリングやアンケートの手法は？

中島副市長 制度設計に入る前に、骨子としてとりまとめ、市民のご意見を伺う場を十分に設ける必要がある。アンケートについても実施したい。

杉村 その場では、市が提案する見直し案とともに、これまで検討した他の案との比較検証結果も示す方が理解がされやすいと思うがどうか？

環境安全部長 比較検討した経緯を説明し、ご意見を聞く場を設けていくことも、大変必要なことと思う。

②廃減審の議論で十分な検証がされていない

杉村 廃減審の議論は、「意見」なんです。ボックスがあると分別ができないというのはなぜか、ボックスを残したまま有料化した場合どのくらいの減量になるのか、など数字や事実の確認による「検証」がされていない。

今後、従来の議論についても、もう少し「検証」を加え、オープンにする必要があるのではないかと？

環境安全部長 従来から積み重ねてきた減量施策を、さらに多角的に検証を深めながら検討し、その結果を広く市民にお知らせしたい。

杉村 それについて何か具体的な考えはあるか？

環境安全部長 民間（への委託）も視野に入れて検証の方策を考えていく。

③減量目標、なぜ50%か

杉村 市のこれまでの説明は、客観性に乏しい。50%減量という目標が無理な論理展開につながっているのではないかと。なぜ、50%なのか？

野口市長 公募市民による検討会から出された素案を踏まえた、府中市環境審議会の環境基本計画の答申に沿って、ごみ50%削減を目標とした。

杉村 理由を聞いたのだが、経過をお答え頂いた。これといって理由があるようではない。50%という数字にインパクトを求めるならそれはありだと思うが、生真面目にこの数字にこだわるならよく吟味する必要がある。調布との比較がよく出てくるが、府中が調布レベルまでごみを減らすには30%、多摩川の処理場に入りきれない13000tを減らすには20%減量すればいい。

50%という目標数値をもう少し柔軟に考え見直してもよいのではないかと？

環境安全部長 計画といえども定期的に進捗状況を確認する必要があると思う。（ごみ減量推進課としても）柔軟に独自のものを考えていきたい。

ごみ処理方法の見直しにあたっては 十分な対話と十分な検証を

ごみ問題を取り上げるのはこれで3度目になりました。今回は党としての折衝も踏まえ、左記の①②については民主党府中支部を代表して質問に臨みました。ようやく市の姿勢に変化がみられたと考えます。

ポイントの一つは、市民との対話です。9月までは新しい処理方式の条例化後に市民に十分に説明して回るということでした。決まったことを説明するだけですから、仮に市民が反対しても方針は変わりません。今回は、骨子の段階で市民の意見を聞く場を十分に設けるということです。市民の意向がその後の決定に影響を与えるでしょう。この機会に、ぜひ、皆さんの声を市に届けてください。

もう一つは、検証です。市のこれまでの説明は実に非論理的です。ボックスを撤去するというなら、撤去しか方法がないことを、様々な検証に基づき、客観的・論理的に説明すべきです。そうでないと市民の納得は得られず、減量効果にも影響するでしょう。今回、遑って検証することになりました。検証結果をみて吟味したいと思います。

もとより私は何が何でもボックス撤去に反対というわけではありません。9割の市民が支持しているという状況を見無視してはいけなく、撤去以外の方法をまじめに模索するのが先決だという考えです。他市の顔色を伺うのではなく、より多くの市民の知恵を集めて、よりよい方法＝府中方式を考えましょう。必ず見つかるはずですよ。

廃減審：
廃棄物減量等推進審議会。
平成19年1月にいわゆる3点セットのごみ処理方法を市長に答申した。

府中「第九」を歌いました

ベートーベンが歓喜によって自由と平等を得るといふメッセージをこの曲に込めました。高校時代、初めて「第九」を歌い、ロマンランの『ベートーベンの生涯』に感動し、音楽を愛し、政治に目覚めました。

府中「第九」も12回目。府中の誇るべきイベントとなりました。これからも文化を育むまちづくりを心がけ、ベートーベンのメッセージを実現していきたいと思っております。

